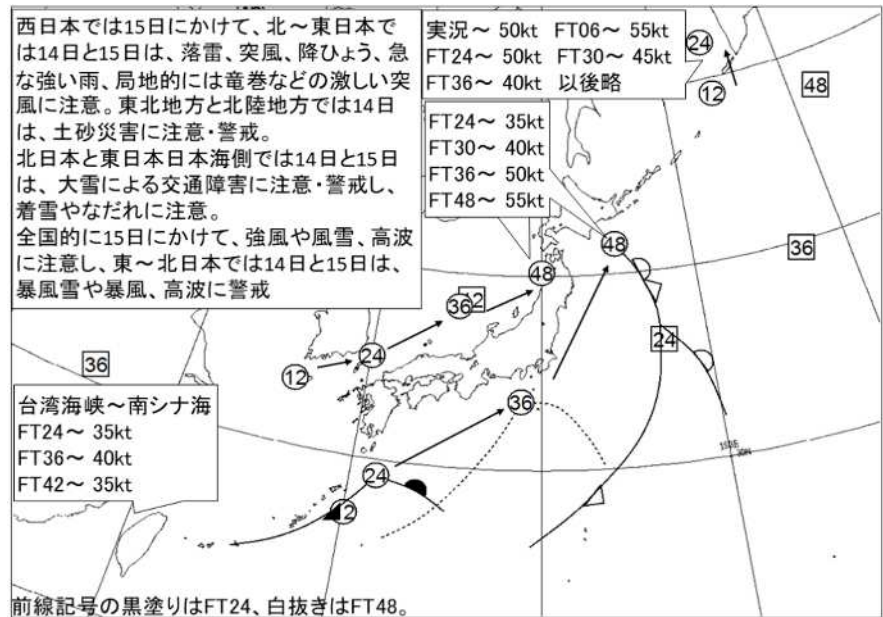


1. 実況上の着目点

- ① 発達中の低気圧が千島近海を北に進む。日本海には高気圧があって南東へ移動。北～東日本では850hPa -9℃以下の寒気が残っており、3時間で5cm前後の降雪を観測。
- ② ①の低気圧と高気圧の間や高気圧縁辺では気圧の傾きが大きくなっており、全国的にやや強い風や強い雨が吹き、波が高くなりしけている所がある。
- ③ 大東島地方にほとんど停滞する低気圧から、気圧の谷が沖縄近海にのびている。南西諸島では激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 14日にかけては、1項①の低気圧はオホーツク海を北上し、1項①の高気圧は14日夜には日本の東に中心を移すため、日本付近の冬型の気圧配置は次第に緩む。
- ② 500hPa 5460m付近で-30℃以下のトラフに対応して、13日朝までに東シナ海で低気圧が発生して東北東進し、14日は急速に発達しながら夜には秋田沖へ進む。また、500hPa 5760m付近のトラフに対応して、1項③の低気圧は13日夜までに前線を伴い、14日からは急速に発達しながら本州の太平洋沿岸から北海道付近へ進み、15日は千島近海からオホーツク海へ進む。低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり局地的には非常に不安定となって、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。西日本では15日にかけて、北～東日本では14日と15日は、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、東北地方と北陸地方では、土砂災害に注意・警戒。
- ③ 850hPaで-6℃以下の寒気は、2項②の2つの低気圧の接近と共に北上し、低気圧後面で南下する。北日本と東日本日本海側では14日と15日は、寒気が南下して降雪が強まる所がある。大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれに注意。
- ④ 2項①②の低気圧の周辺や2項①の高気圧の縁辺で気圧の傾きが大きくなる影響で、強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしけや大しけとなる所がある。全国的に15日にかけて、強風や風雪、高波に注意し、東日本では14日は、北日本では14日と15日は、暴風雪や暴風に警戒し、高潮に注意・警戒。東～北日本では、14日と15日は、高波に警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ### 4. 防災関連事項〔量的予報等〕
- ① 雨量(06時からの24時間): 多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量(06時からの24時間): 多い所(注意報級以上)はないが、2項③の降雪の強まりに注意。
 - ③ 波浪(明日まで): 北海道・東北・北陸6、伊豆諸島・近畿・中国5、その他広い範囲で3～4m。
 - ④ 高潮(明日まで): 北～西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「暴風雪と高波及び大雪に関する全般気象情報」を5時頃発表予定。